

教育問題

問 文化の象徴・図書館施設の充実

答 図書館整備は新築で検討する



小林 英雄 議員

【白馬村図書館問題 (つづき)】

問 村図書館の運営理念には、村民の暮らしを支援し、まちづくりに役立つ図書館を目指す。全国的に複合施設としての図書館が増えているが（ミュージアム、サロンなどの併設）、村長の考えは。

村長 複合施設は地域文化のシンボリックな施設として、地域社会の活力を育む効果が期待されますので、当然必要と考えています。

問 現在の施設は増改築か、新設するのか。また、調



木彫文化を支えた木彫センター（八方口） 4月25日

査・検討はどこまで進んでいるのか。

村長 増築等で解決できる問題ではなく、新築というところで進めていきたいと思っています。厳しい財政事情の下での財源確保の問題はありますが、第4次総合計画のおおりに、図書館施設整備について調査・検討を行ってまいります。いたずらに先送りするわけではありません。

問 図書館協議会の開催回数を増やす検討は。

村長 新たな機能を付加した図書館の展開を含め、協議会に調査・検討をお願いすることになります。よって、計画にある検討項目をクリアするために回数は増えることになると思います。

【木彫文化の再生について】

問 木彫の匠として知られる複数の方々が、その技量を発揮している。木彫文化の里づくりのため、現木彫センター（作業所）の地代などに対する助成は。

村長 現木彫センターは、昭和56年に村内の木彫作

家7名が白馬木彫連合組合をつくり、施設を建築し運営してこられました。現在教室の収入や会費を中心に木彫連合組合で運営されており、助成は考えていません。しかし、いろいろ経緯もあるようですので、組合の方と話す機会をつくりたいと思います。

問 作品展示場の新設または拠点づくりは。

村長 展示場の新設や拠点については、組合が必要としていないように聞いています。必要ということであれば、公共施設等の開放も考えたいと思います。

問 後継者育成のための助成は。

村長 組合の方が講師を務め、公民館の成人学級として木彫教室を開講しており、現在は木彫同好会15名の方が文化祭などにその成果を発表しています。若年後継者はなかなか育ちにくい状況ですが、白馬村の木彫技術は、愛好家を通じて脈々と受け継がれているものと思います。